

●京師帝國大學文科大學考古學研究報告第一冊

〔肥後に於ける裝飾ある古墳及横穴〕

本書は京都文科大學助教濱田耕作氏、同大學教務部囑託梅原末治氏が、昨年十二月より本年一月に亘り、熊本縣下に於て行へる調査の結果にして、南は球磨郡人吉町附近より、北は玉名郡高瀬附近に及び分布せる裝飾ある古墳及横穴に關するものなり。九州地方は我上古の歴史に於て頗る重大なる地位を占むるもの、殊に西部地方は大陸との交通早く開け、彼の文化の影響少からずして此地方に多く見る所の彫刻或は彩色を施せる古墳の研究は考古學上興味あるものなると共に、我國上代文化史に於ても極めて意義ある問題を提供するものなり。本書は其等古墳の分布地域を大別して熊本附近、八代附近、人吉附近、高瀬附近及び菊池川上流山鹿町附近の五區とし、熊本附近については六嘉村井寺等八代附近には大甕藏等の古墳を初め、人吉、高瀬附近の各個の遺跡に就きて其外貌、石室及び内部構造、細部の裝飾模様彩色等の精細なる記述をなし、又後論として裝飾模様の種類と其意義、裝飾古墳の年代等の章を設けあり。裝飾模様の種類と其意義に於ては此等の古墳横穴に見る裝飾を楯、刀劍、矢筒形、弓、鞘、動物、圓、同心圓、對角線、三角形、菱形、或は直弧紋と稱する複雑なる文樣等に分類し、其各々に就て、或はエトルスキの墳墓に其例證をこ

り、或はコレレーマー氏の所謂 Steuntopus との比較を以てして是等の紋様の性質、起原意義等を説明せんとし、裝飾古墳の年代に於ては、先づ井寺、日輪等を以て西暦六世紀の始より七世紀の初頃のものと推定し、日奈久、鼠藏等のものは文様に墮落的傾向を示せるものありとして前者より稍々後れ、六世紀中葉より七世紀終のものとし、以下石貫村横穴、大村及京ヶ峯横穴等のものも文様の同異、發達、墮落其他の事情より推定し、年代の前後を定めんと企てたり。かくて結論として、九州地方の中筑後肥後に多く見る正方形に近き平面の石室と穹窿の天井を有せる形式と一方日向などの裏九州より近畿に於て見る長き石室を有するものとの差異は顯然と分ち難きものにして、この差異は結局人種的差異の所産に非らず、只形式上漢土文化の影響を受けたるを示すのみにして、本土にあるものと同様「日本人」の築造したるものなりと斷ぜり。而して本書記事中夥多の挿圖を有し、尙卷末圖版として附するに、寫真石版、破璃版等四十餘圖を以てせるは記事と相参照して、肥後古墳の實狀を窺ふによし。(京師帝國大學發行、實費二、〇〇)〔西田〕

●稿本考古年表

沼田賴輔編

去る五月廿日東京美術學校にて開催せる考古學會第二十二回總會の席上、諸家の日本考古學發達史の講演ありたる際、これが參

考となさん爲め沼田賴輔氏の編纂に係る。紙數二十六頁の小冊子なれど、度長より初めて最近に及ぶまでの考古學に關係せる書籍の出版、主要なる遺物の發見、學者の生年と没年、研究事項、斯界機關の設立の年次等を表示して、斯學發達の大要を一目瞭然たらしめんことをものにて斯界の記事各方面に亘り頗る重寶なり。

たゞ序言にも記した表題にも示せる如く本書はもとより稿本として短日月の編纂になれるを以て、記事時に或部分に偏せるあり考古學上の重要な記事を脱し、記載の事項に誤謬あるものまた往々これを見る。是等は他日更に廣く材料を求めて、充分なる補訂を加へ、統一あり權威ある完本考古年表となさん事を編者に望まざるを得ず。(聚精堂發賣、價二〇)

●史蹟名勝天然紀念物保存協會第六回報告

徳川賴倫侯初め朝野の有志に依り組織せる史蹟名勝天然物保存協會より數年來發行し來れる報告の一にして、去る三月の出版にかゝる。本文九二頁圖版二十三葉より成り、載する所は同會が大正五年十月廿八日東京南榮文庫に於て開きたる第五回講演會の講演筆記にして、工學博士伊東忠太氏の「法隆寺」、林學博士本多靜六氏の「天然紀念物と老樹名木」、徳川侯爵の「兩羽旅行の雜觀並雜感」、「紳士道の發揮と學術上の光輝」の四編なり。「法隆寺」は先づ同寺が佛教研究の學問寺なることより建築美を説き、其の様式と

藝術の源流をたどりて、同寺が今日まで保存せる原因を平易に論じ、多くの圖を載せて其の論據を明にせり。また「兩羽旅行の雜觀」は個々の遺蹟の圖を擧げて之を解説したるものなり。(講報社發賣、價、五〇)

●大阪府史蹟調査委員會報告 第四號

口繪寫眞版四葉、本文六二頁より成り、載するところ、文學博士喜田貞吉氏の「猪名部と佐伯部」同「三島地方の古代」同「南河内郡古代遺蹟に就て」、文學博士黒板勝美氏の「南河内の文書に就て」、榎原末治の「河内高井田横穴群の調査」の五編及び、南河内郡、東成西成兩郡合併の兩史料展覽會の記事、府下名木調なり。猪名部と佐伯部以下の四論文は何れも同會が開ける各郡の講演會に於ける講演の筆記なるが、その郷土の遺蹟并に歴史を各専門上より論じたるものなるを以て、平易の内に一般府民に此種の概念を與へ、史蹟表彰に裨益する所あらん。また展覽會の記事は同會事業の一部と史料の所在を窺ふを得るものなり。たゞ委員諸氏の史蹟の調査上の報告及び其他會の他の事業に就ての記事を缺けるは憾むべし。(非賣品)

●宮崎縣西部原古墳調査報告書

數年來宮崎縣が東西兩京大學に囑して専門家の出張を請ひ、發掘

研究をなすつゝある同地兒湯郡西都原古墳に就いて、本年一月の調査の結果を載せたるものなり。該報告は京都大學の濱田助教等より提出せるものに係り、本文十八頁、附圖九より成り、大体に於いて本誌前號所載の同報告に同じきが、船塚後圓部に於ける遺物配列圖を初め更に數個の圖を加へて其の狀態を一層明瞭ならしめたり。(宮崎縣印行、非賣品)

●奈良縣、史蹟、地調査會報告書 第四回

大正五年度の奈良縣史蹟勝地調査會の報告書にして、天沼、水木佐藤、新納、大宮、西崎の六委員より提出せる寺址、石塔、燈籠、石佛、墳墓、石造物等に關する調査の記事二十四件を載せたり。本文七十四頁、附圖八十二葉、附錄六頁あり。体裁すべて既出の報告書と同一に成れるが、本冊には同會が昨年度に於いて特に其の事業として行へる大野寺石佛調査報告及び其の委員を派して發掘に参加せしめたる室生寺境内の所謂北畠親房墓と稱するもの、調査報告を載せたるは注意す可き記事なり。委員各自提出の報告にては、天沼委員の山田寺址の詳密なる實測圖、高市郡高市村新發見の酒船の報告、西崎委員の奈良十輪院魚養の塚の記事等最も興味あり。其他は石燈類石佛等が大部分を占めて、あたかも燈籠調査書の感を與ふるは惜むべし。大和には調査を必要とする重要な史蹟は是等以外に無數に存在するを以て、委員諸氏が更に廣

く其等の點に注意して續々正確なる調査を公にせられん事を望まざるを得ず。また本報告に圖版の豊富なることは此の種報告書の性質上最も喜ぶべく、またその正確なるは本書の價値を増すものなり。たゞ圖版の大き區々にて折方の一定せざるは研究資料をして永久保存の要ある書として破損の恐れあり、且つ對照に不便なり。一々の圖に就いて見るに必ずしも大形なるを要せざるもの多きが如ければ編者の思をこゝに致して一定の大きに改められん事を望む。附錄には同會が數年間縣費を投じて修理せる史蹟の一覽表を收めたり。此の書、非賣品なれども殘本ある間は奈良明新社に於いて實費七十八錢(郵税共)を以て希望者に分與せらるべしと云ふ、(以上梅原)

●雜誌

●傳教大師に對する日蓮上人の態度

文學博士 姉崎正治

(宗教研究第一卷第四號所載)

日蓮が文永元年の法難後、十四箇月に著せし法華題目抄には「根本大師門人日蓮」と署名し、文永十年の著なる「本尊抄」には「本朝沙門日蓮」とあり、最蓮房に授與する血脉には「末法法華一乘行者、法華宗沙門日蓮」の署名ありと雖、要するに文永元年の頃